

教養学部教養学科 地域文化研究分科

# ドイツ研究コース

2021年度ガイダンス資料



**Herzlich Willkommen!**



## 目次

|                            |   |
|----------------------------|---|
| はじめに ～ドイツを学ぶということ～         | 2 |
| 1. 研究室                     | 3 |
| 2. 留学                      | 4 |
| 3. 進路                      | 4 |
| 4. 卒業論文題目                  | 5 |
| 5. ドイツ研究コースについて～先輩たちのコメント～ | 6 |
| 6. コラム Kaffeepause         |   |
| おわりに（ドイツ研究コース連絡先）          | 8 |



## はじめに ～ドイツを学ぶということ～

### “新ヨーロッパ中心国”の全てを学ぶ！

皆さんは、「ドイツ」にどんなイメージを持っているでしょうか。「詩人と思想家の国」、偉大な芸術家の国でしょうか。伝統的なものがしっかり受け継がれている一方で、ドイツはテクノ音楽や様々なアートなど現代文化の発信地でもあります。またはいくつかの世界的な自動車メーカーや、今や多くの日本人選手が活躍するブンデスリーガを思い浮かべるでしょうか。あるいは、自然エネルギーへの転換を強力に推し進める環境政策の先進国？いやいやドイツといえばナチズムの歴史を抜きにしては語れない？それともやっぱりビールとソーセージ？！

私たちの考えるドイツは、その全てです。ドイツ研究コースでは、このドイツのさまざまな魅力について、網羅的体系的に学ぶことができます。

ドイツは激動の歴史を持つ国です。政治体制だけではなく、その境界も現代まで何度も変動してきました。ナチ時代のように強力な中央権力が存在した時代もありましたが、基本的に連邦制の国であり、州や地域によって多様な文化を持っています。（例えば州によって祝日が異なりますし、ビールよりもワインという地域もあります。）

ドイツはヨーロッパの中心に位置し、それゆえにドイツのあり方はヨーロッパと常に関わってきました。そして現在では、拡大するヨーロッパ地域統合の中核として重要な役割を果たしています。また近年は移民を積極的に受け入れてダイナミックに成長しようとしている国であり、他文化や隣人たちとの交渉や相互の影響も無視できません。

**ドイツを学ぶということは、そこを手がかりにして、ヨーロッパやさらに大きく広がる世界を理解する入り口になるのです。**



## 1. 研究室

### 《研究室の概要》

正式名称は、「教養学部教養学科地域文化研究分科ドイツ研究コース」です。場所は、銀杏並木に面した 8 号館 4 階 403 号室です。エレベーターホールから見て右側の奥から二つめの、銀杏並木側の部屋です。ホームページもあります (<http://eu.c.u-tokyo.ac.jp>)。

### 《ドイツ研究コース学部生+大学院生のメンバー》

- ・学部生：4名
- ・院生：11名 修士課程4名、博士課程7名
- ・教員4名

合計15名から構成されています。多すぎず少なすぎず、研究室の居心地の良さは抜群で、多くの学生さんが自習や休憩に利用しています。研究室は、学期期間中の平日朝8時半～夜10時まで開いており、パソコン、プリンター、スキャナーなどを自由に使えます。また学部生と院生、教員との距離も近く、色々な相談などに気軽に乗ってもらえます。

### 《教員紹介》

- ・足立 信彦 (ADACHI Nobuhiko) 教授 (18号館713号室)  
ドイツを中心とするヨーロッパ研究。文学、ジェンダー、セクシュアリティ、人種、アフリカ。多様性と多元論に関する思想史。
- ・石田 勇治 (ISHIDA, Yuji) 教授 (18号館1019号室)  
ドイツ現代史、国際関係史、比較ジェノサイド研究。「総力戦と構造変動」をキーワードに、第二次世界大戦がヨーロッパの政治・社会・国際関係にどのような影響を及ぼしたかについて研究している。
- ・川喜田 敦子 (KAWAKITA, Atsuko) 准教授 (18号館1119号室)  
ドイツ現代史。20世紀ヨーロッパにおける人の移動、ドイツの歴史教育などについて研究している。
- ・森井 裕一 (MORII, Yuichi) 教授 (18号館1023号室)  
ヨーロッパ統合・ドイツ現代政治、国際関係論
- ・伊東 直美 (ITO, Naomi) 教務補佐 (8号館403号室)  
ドイツにおける国籍、移民問題を研究。

## 2. 留学

ドイツ研究コースでは、以下のようなドイツへの留学制度および奨学金が利用可能で、留学を希望したほとんどの学生がその機会を得ています。また、東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究所(DESK)が提供する教育プログラムへの参加や奨学助成金への申請も可能です。たくさんの留学機会が設けられていますので、ぜひドイツ研究コースに進学して、利用してください！

| 国際本部（全学）との協定校 | 総合文化研究科・教養学部後期課程との協定校 |
|---------------|-----------------------|
| ベルリン自由大学      | ベルリン自由大学              |
| ミュンヘン大学       | ベルリン・フンボルト大学          |
| ケルン大学         | ハレ大学                  |
|               | ギーセン大学                |
|               | デュッセルドルフ大学            |
|               | トリーア大学                |

（募集時期については、教務課や「Global 駒場」、「Go Global 東京大学海外留学・国際体験情報」のサイトを、各自こまめに確認して下さい。）

## 3. 進路

### <就職先>

NHK、東京ガス、メルセデスベンツ日本、アクセンチュア、住友商事、住友化学、川崎重工業、ダイキン工業、損害保険ジャパン、参議院事務局、その他、金融・メーカー・総合商社・出版・教育関係など

### <進学先>

東京大学大学院（総合文化研究科・人文社会科学研究科・教育学研究科）、慶應義塾大学大学院商学研究科 など

## 4. 卒業論文題目

### 2020 年度

- ・Manfred Gurlitt (1890-1972)の迫害についての一考察

### 2019 年度

- ・過去の声たち ハイน์リヒ・ベル『九時半の玉突き』における語り的手法
- ・東ドイツにおける「対抗公共圏」形成の試み -1980年代体制批判運動によるメディア活動-

### 2018 年度

- ・代替不定詞と上域
- ・旧東ドイツにおける政治教育の変容
- ・ドイツ・日本における容器包装材リサイクルに関する制度

### 2017 年度

- ・ルカ福音書における Western Non-Interpolations に関する研究 — “西方型”テキストは改竄か否か
- ・19世紀都市衛生行政における科学者の立ち位置: ベルリン市下水道とフィルヒョウの「社会医学」
- ・ドイツ関税同盟官僚の自由裁量、経歴形成、アイデンティティ
- ・アルトゥル・シュニッツラーと『ベルンハルディ教授』におけるユダヤ性のイメージ

### 2016 年度

- ・「記憶・責任・未来」基金とアジア女性基金の比較
- ・日本サブカルチャーに登場するフィクショナルな固有名詞の構造分析

### 2014 年度

- ・ドイツ帝国の記念碑—20世紀における解釈の変化
- ・ナチ時代におけるドイツ図書館の変容
- ・政治的自律性への道—1950年代から1961年までの社会主義ドイツ学生同盟(SDS)
- ・信教の自由をめぐる論争—フーゴ・グロティウスとクリスティアン・トマジウスにおける国家・教会関係

### 2013 年度

- ・ドイツにおけるムスリム系移民に対する見方の変化—ザラツィン論争を契機とした一考察
- ・ゲーテ「ファウスト」の枠構造
- ・コスプレとハロウィン—仮装文化の展開

### 2012 年度

- ・アドルノ美学における「謎」概念
- ・ドイツ連邦共和国の紛争予防政策

### 2011 年度

- ・冷戦下におけるドイツ連邦共和国の領土問題とアイデンティティ
- ・ヘルムート・シュミットの日本観に関する一考察

### 2010 年度

- ・ドイツ安全保障政策とEU共通外交・安全保障政策—コソヴォにおけるEU法の支配ミッションを例に
- ・東ドイツにおける極右活動に関する言説について—極右はドイツ民主共和国の遺産か



## 5. ドイツ研究コースについて～先輩たちのコメント～

### ①ドイツ研究コースに来てよかったこと…

- ・ 文学、歴史学や政治学、自分の興味とは直接は関係ないと思っていたところからヒントがもらえた。
- ・ 新しいテーマにも対応していて、研究の自由度が高いように感じる。
- ・ DESK を通じて国外で様々な経験をする機会に恵まれた。
- ・ 授業に疲れたらコーヒーとお菓子で癒されながら友達や先輩と談話して、そのまま勉強や研究もできる部屋がある。
- ・ 少人数なところ。先生や先輩との距離も近く、密な人間関係を築くことができる。

### ②留学を考えている皆さんへ…

- ・ ベルリン・フンボルト大学留学  
留学生にとってはやりやすい環境。大学付属の語学学校が（ドイツ語以外も）充実。語学パートナーや友達も見つけやすい。専門図書館、アーカイブ等も各種充実。美術館、ギャラリーが充実。音楽（ベルリンフィルその他コンサート）、オペラ、バレエ etc…日本では想像できないような価格で楽しむことができる。
- ・ 奨学金  
大学公募型と個人応募型があり、例えば、東大の「東京大学海外派遣奨学事業」などがある。  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/scholarship-list.html>
- ・ DESK（東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター）  
ドイツ・ヨーロッパ研究を志す人のための教育プログラムが設けられており、各プログラムの規定にしたがって学修を進める学生は、論文執筆のために主としてドイツで現地調査を行なう場合にセンターの奨学助成金に応募することができる。  
<http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/education.html>
- ・ 単位互換制度  
留学中、語学の単位は思うように取れる（逆に言うと、その他の単位取得は結構厳しい）。東大で語学以外の単位をできるだけ早い段階で取得し、留学中に取った語学の単位を振替えば、留年せずに大学を卒業することも不可能ではない。

### ③卒論をドイツ語で書くのが不安という方へ…

なんとかなります！

→ドイツ語での論文の書き方を学ぶ授業がありますし、ネイティヴの先生が添削もして下さるので、心配はいりません。もちろん努力やそれなりの苦労は必要ですが、それはどこへ進学しても同じですよ。毎年多くの学生さんが良い卒論を書き上げています。

### ④ドイツ語って正直役に立つ？ドイツ研究コースって就活の時どうなのかな？と思っている方へ…

- ・ 文系である限りは、特殊なケースを除いて、専攻の内容が就職活動に影響することはほぼない（むしろ性格や志向が大きいと思います）。
- ・ 現在、ドイツとは全く関係ないところで働いていますが、ドイツ研究コースでの経験は今の生活に活かしていると思います。卒論をドイツ語で書いて粘り強くなりました。

## 6. コラム Kaffeepause

### お気に入りのチョコレートを探して

ドイツ研究コースに進学した場合、ヨーロッパ、ドイツに行く機会がきっとあることでしょう。そうした時、いつも頭を悩ませるのは、お土産に何を買っていくかということ。暑い夏以外、定番はチョコレート。軽く、かさ張らず、たくさん買って配って。もちろん自分でも食べます。チョコレートがない人生なんて、、、

『チョコレートの真実』なんて読んだ日には児童労働の片棒を担がないために、これからはフェアトレードのものだけを食べると心に誓ったのも束の間、誘惑には勝てません。

普段使いで有名なのが、ミルカ(Milka)。元はスイスで今はアメリカのモンデリーズ・インターナショナルが取り扱い、リッツとオレオの会社です。クリームがたっぷり入っている感じが○。キンダー(Kinder)はドイツとばかり思っていたらイタリアのフェレロ社でした。ドイツに工場があるのだとか。こどもは大好きなようですが、歯がとけるかと思うほど甘い。そしてリッタースポーツ(Ritter Sport)。ちょっと配るのに最適な正方形。種類が豊富でスーパーで買うと大抵安く買える。

定番中の定番がリント(Lindt)、これまたスイスですけども、都内にショップが何店もあり、お高いイメージがあるので最もお土産に適していると言っていいでしょう。これと並んでデ



パートでよく売られているのがブレーメンのハシェ(Hachez)。多くのチョコレートメーカーが既製品のクーベルチュールを使う一方でこちらは自社製で、ドイツ人からの評価が高いです。ベルリンに来たらお勧めなのが、ラオシュ(Rausch)。本物志向のチョコレートで、店の中はチョコレートでできた建物が並んでいて、見た目と匂いに癒されます。

ここでどのチョコレートが一番やめられないかと言えば、まずスイスのレダラッハ(Läderach)を挙げたいと思います。最近では Marc Antonie の名前でデパートに入っているようですが、中にナッツやフルーツがふんだんに入っている大きな板状のチョコレートをカットして量って売ってくれます。銀座の三越に店舗が入っていますが、100gで1800円！ホワイトチョコにピスタチオや色んなナッツが入ったものがおすすめ。ドイツに行ったら、自分買いすべき一品です。

もう一つ、シンプルを極めたチョコレートがシチリア島のモディカです。こちらはイタリアまで遠征するか郵送ですね。アステカ帝国を滅ぼしたスペイン人がカカオを持ち帰り、それが16世紀、スペイン王家の支配下にあったシチリアに持ち込まれ、昔ながらのカカオ、粉砂糖、スパイスのみを用いて、チョコレートが作られます。砂糖がじゃりじゃりしていて、普通のチョコレートとは違いますが、これまた病みつきの一品です。

ここまで行くとチョコレートはどんな風に作られるのか試したいですね。カカオ豆をオーブンで焼いて、中からカカオニブを取り出して、すりつぶしたらカカオマスの出来上がり。これに市販のカカオバターと砂糖を湯煎しながら混ぜて、後は広げておいて固まれば出来上がり。でもカカオニブを取り出す作業が面倒なのと、どうしてもすりつぶしきれないところが残ります。作業が面倒な人はカカオニブを購入し、バイタミックスといったミキサーを使うと簡単にできます。何日か経って落ち着いたころ食べるとおいしいです。香りが強く、たまらない誘惑です。

要するに、いろいろ調べて、良いところは真似して、最後は自分で練り上げるという工程は少し学問の世界に似ていると思いませんか？皆さんも専門に進んで、ぜひ自分好みのオリジナルなチョコレートを仕上げてくださいね。

## おわりに（ドイツ研究コース連絡先）

少しでもドイツ研究コースに興味を持ったあなた！進学のことやドイツ研究コースのことで質問や相談があったら、ガイダンス時以外でも、ドイツ研究コースを気軽に訪問してください。きっと先輩たちが親切に教えてくれますよ！

ドイツ研究コースにはホームページもがあります (<http://eu.c.u-tokyo.ac.jp>)。また、メールマガジンでは研究室の最新情報を配信しています。購読希望の方はホームページから登録するか、直接、教務補佐 (naomiito@g.ecc.u-tokyo.ac.jp) にメールして下さい。

ドイツ研究コースは、あなたの進学を心待ちにしています！

2021年 ドイツ研究コース